

I. 神奈川県内 c. 海成・河成堆積物

(11) 貝化石を含む下原層 露頭剥ぎ取り標本

標本番号 KPM-NP 30, 31

標本名 貝化石を含む下原層 露頭剥ぎ取り標本

大きさ

KPM-NP30: 幅 0.95 m, 高さ 2.67 m

KPM-NP31: 幅 1.73 m, 高さ 1.18 m

重量

KPM-NP30: 11.6 kg

KPM-NP31: 9.5 kg

形状・展示・収納状況 やや厚い絨毯状、NP 30 は短辺を軸に巻き、NP 31 は折りたたんで大型移動棚に収納

採集地 神奈川県小田原市小船 東海道新幹線橋梁の南方約 200 m

緯度・経度 N35°18'02.7", E139°13'49.5"

標高 19-21.3 m

露頭の種別と現状 宅地造成の工事に伴う階段造成前の人工露頭、消失

露頭面の向き、傾斜 南南東向き、傾斜 79° ~ 43°

走向・傾斜 ほぼ水平

堆積物の種別 砂礫～砂質シルト層（海成～潟湖～河成層）

年代 完新世（下原層、松島ほか（2007））

採集作業 森山哲和（考古造形研究所）

採集立会い者 松島義章、田口公則

採集日 2004 年 3 月 24 日

その他 中央やや上の層準に鬼界アカホヤテフラ（約 6,300 年前、補正年代では 7,300 年前）を含む

関連文献等 松島義章・田口公則・樽 創（2007）神奈川県小田原市小船における完新統下原層の露頭剥ぎ取り資料および産出した貝化石、神奈川県自然誌資料, (28): 17-20.

解説 下原層上部海成層の最上部層準（海拔高度 19.0 ~ 19.45 m）から、これを覆う下原層最上部の潟湖～河川成堆積物（海拔高度 19.45 ~ 21.3 m、炭化した木片や軽石礫などを含む）までを剥ぎ取り。下原層上部海成層からは、現在の相模湾沿岸では生息していないシオヤガイやコゲツノブエなどを含む貝類 47 種が産出（松島ほか, 2007）。海拔 20.5 m 付近の砂質シルト中に、鬼界アカホヤテフラ（K-Ah）が介在。

記録者 田口公則

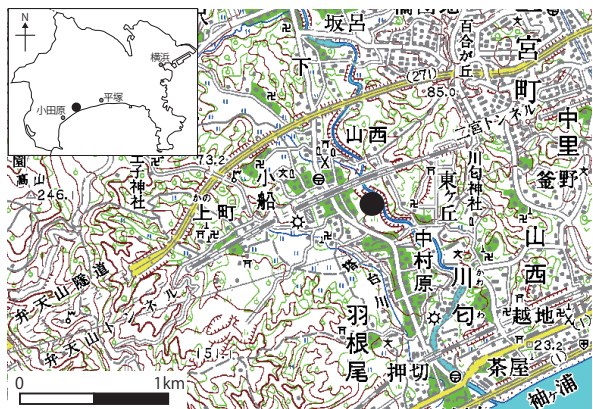


図 Ic-11-1. 採集地点（国土地理院発行の数値地図 50,000（地図画像）「茨城・千葉」を使用）。

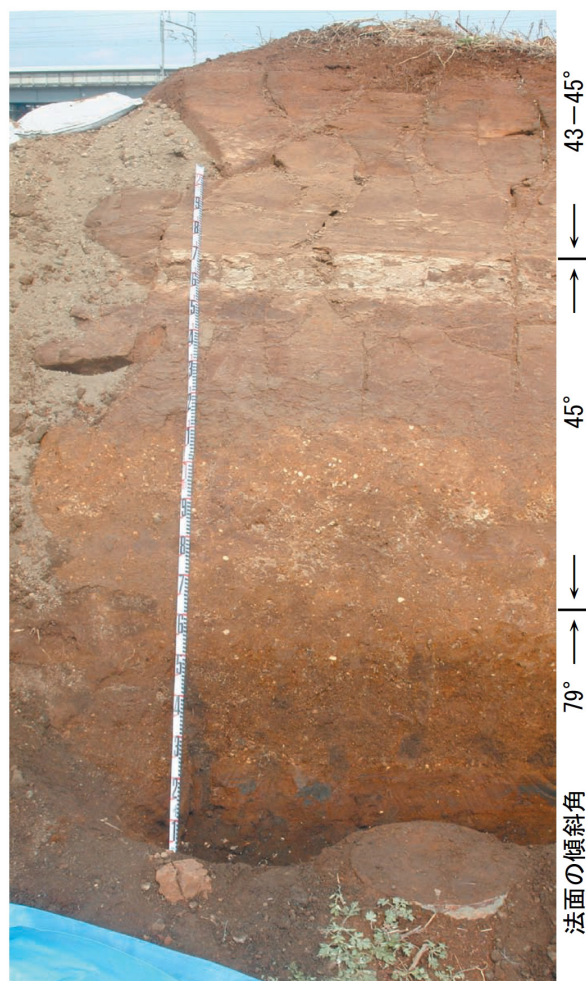


図 Ic-11-2. 剥ぎ取り標本の採集露頭（松島ほか, 2007）。



図 Ic-11-3. 剥ぎ取り標本の展示の様子（2004 年企画展「+2℃の世界—縄文時代に見る地球温暖化—」）。

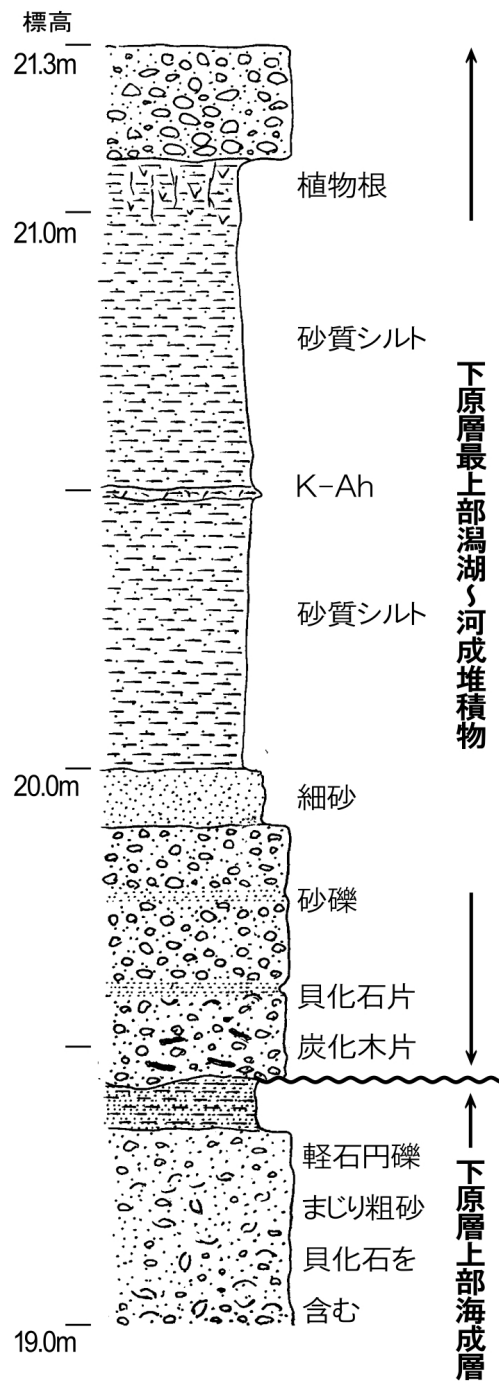


図 1c-11-4. 採集露頭の柱状図 (松島ほか, 2007).

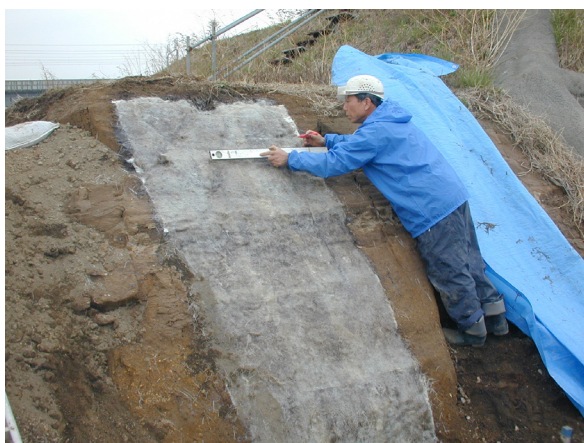


図 1c-11-5. 剥ぎ取り標本の採集の様子 (水平レベルをあてながら標高 21.1m の水平線を引く作業).



図 1c-11-6. 剥ぎ取り標本 (KPM-NP 30) の写真.



図 1c-11-7. 剥ぎ取り現場の様子（左手の法面角で採集しているのが KPM-NP 31, 右手法面で採集しているのが KPM-NP 30）.



図 1c-11-8. 剥ぎ取り作業後の標本（右：KPM-NP 30, 左：KPM-NP 31）. 採集層準を揃えて並べたところ.



図 1c-11-9. 剥ぎ取り標本（KPM-NP 31）の写真.